



会見後、大使館の女性スタッフからTシャツを贈られるチャモロ・ニカラグア大統領 (2.13)

日本記者クラブ会報

第253号
1991年
(平成3年)
3月10日発行

東京都千代田区内幸町二ノ二ノ一
日本プレスセンタービル 100
社団法人 日本記者クラブ
電話三〇三二七二二(代)

ゴ大統領来日に備える

会見の「全文掲載」で申し合わせ

第186回企画委

ゴルバチョフ・ソ連大統領の来日まで一か月余り。日程については四月十六日から十九日までと

っていますが、まだ多少の変動があるかもしれません。

日本記者クラブとしてはいつ会見が行われてもよいように、十階のプレスセンターホールを確保していますが、収容能力を最大限見積もっても三百人です。会見が行われれば、クラブ発足以来という空前の出席希望者が殺到することは必至です。警備上の都合もあり、混乱の起きないよう会見をセツトする必要があります。

このため、二月十二日の一八六回企画委員会で、平野裕委員長を中心に小委員会を作り、実施要項をまとめることが決まりました。決まり次第ご案内いたします。

昨年末来日したブルンスキネ前リトアニア首相の記者会見の内容が、そっくり月刊『宝石』三月号に掲載されました。記事を読んでいけば日本記者クラブでの会見とわかりますが、クレジットもなく、全く断りなしに掲載されたものでした。

記者会見という性格から難しい問題はありますが、著作権法の主旨などを考えると今後放置できぬケースです。そこで、クラブとしては『宝石』側に抗議するとともに、同日の企画委員会でこの件を討議、今後会見の全文を非会員メディアの雑誌等に載せる場合は原則として認めないことを確認しました。ただし、会見を行ったゲストからクラブに対し使用の要請があった場合には、企画委員長が可否を判断することになりました。

二月のクラブ行事は、二十八日の鈴木永二日経連会長の昼食会を

含め、十三日「チャモロ・ニカラグア大統領、十九日「ネーメト前ハンガリー首相、二十一日「金容淳朝鮮労働党代表団団長の記者会見など、"につばち月"とは思えぬほどにぎやかでした。

二十日には「新しい科学と技術」研究会で、光岡知足東大名誉教授が腸内細胞とがんについてわかりやすくレクチャー、出席会員から大好評でした。近く「記録版」に掲載、お届けするつもりです。ぜひ奥さんともどもお読みいただきたいと思います。

湾岸戦争でイラクに赴き「終戦工作」にあたった、ソ連のブリマコフ大統領特使がイラクから帰つてすぐの十五日に来日、クラブでも会見を十六日の午前中にセツトし、各社に連絡しました。しかし、残念ながら同氏から「微妙な時だけに何もお話できぬ」と会見を断られ、中止のやむなきにいたしました。当日、わざわざ足を運んでいただいた方もあり、ご迷惑をおかけしたことをおわびします。

(事務局長 白木東洋)

とっておきの話

伊藤律氏の「証言」



永野 信利

帰国後、一部の新聞に

「証言」を語っている。

従って、今では大使館

員に語った「証言」を

伏せておく必要もなく

なったといえる。

ただ帰国後に関係者

や肉親と会い、日本の

事情を知ったあとの「証言」

と、潜行後二十九年間も監獄と

病院で過ごした後に、初めて大

使館員に会って語った言葉とで

は、ニュアンスに微妙な違いが

ある。同時に、伊藤氏は日本の

共産主義運動の裏面史をつづる

うえで、欠かすことのできない

人物である。やはり、その時の

「証言」を正確に明らかにして

おいた方がよいと思うようにな

った。とはいえ、それをセンセ

ーショナルには扱いたくない。

そこで、この『とっておきの話』

の欄を使わせて頂く次第であ

る。

前置きが長くなったが、当

時、私の伊藤氏への関心は四点

あった。第一は、政治局員の

頃、日本政府を罵倒していた伊

藤氏が大使館員にどんな態度で

接するかという点である。第二

は、北京へ行った理由である。

第三は、日本共産党と伊藤氏と

の関係である。そして第四は、

中国が伊藤氏をどのように扱っ

ていたかであった。

このうち伊藤氏の大使館員に

対する態度は卑屈にみえるくら

い丁寧だった。報告書という。

「同人は冒頭、『三日前にご

足労頂き、親切にして頂き、あ

りがとうございました。祖国日

本の温かさを身に染みて感じま

した」と挨拶した。(渡航手続

きにつき説明したところ) 同人

は、『ありがとうございます。

こんなに早く連絡していただい

て……』と述べた」

かつて日本政府を米帝国主義

の手先呼ばわりしていた伊藤氏

が、その手先に向かって感謝の

念を最大限に表している。そこ

には祖国へ戻れる喜びと、伊藤

氏の政府への認識の変化がうか

がえて興味深い。

東京新聞の朝刊トップに「伊藤律氏北京で生存 中国が正式確認」——の見出しが躍ったのは、昭和五十五年八月二十三日のことである。北京発浅川特派員の記事であった。ただその記事を読むと、吉田駐中国大使は、「まだ伊藤氏に面会していない」と述べていた。

当時「霞クラブ」詰めだった

私は、この大使発言を見て「近

く大使館員が必ず伊藤氏に面会

する」との確信を持った。帰国

するためには、渡航書の発給が

必要だと思ったからである。「そ

の際、伊藤氏は大使館員にいろ

いろと話をするにちがいない」

——私はなんとしても伊藤氏の歴

史の証言をとりたいたいと思った。

伊藤氏といえば戦後の一時期、日本共産党の最高幹部の一人として活躍し、その後地下へ潜ったまま約三十年間も消息を絶っていた謎の人物である。私は早速、北京から外務省に送られてくる電報に目を通してうな何人かの幹部に網を張った。そしてついに、報告書の全文と伊藤氏の経歴書および渡航発給申請書入手し、同年八月二十九日付朝刊のトップを飾った。

ただ実を言うと、この記事に

は全文および渡航発給申請書を

載せていない。それは情報提供

者への配慮と私自身の伊藤氏へ

の憐憫の情からであった。だが、

その伊藤氏も一昨年の八月七日

に死去した。そして伊藤氏自身

北京への渡航目的については次のように述べている。

「中国にきたことを『亡命』であつたと考えている。日本で革命運動ができないから外国へきた。しかし決して日本国籍を捨てるつもりはなく、一時政治避難したものである。祖国は日本であるから死んでも日本国籍は捨てない。中国名は『顧青』と名乗っていた」

日共との関係はどうだったのだろうか。伊藤氏は言う。

「中国へ渡航後、まもなく日共から隔離審査を受けたが、一九六二年以降は日共の人がこなくなつて、会わなくなつた」

名前だけが自筆の渡航発給申請書のコピー

干渉との態度をとっていた。中国側は関係してない」と述べるだけである。中国を非難しないことが釈放の条

件だったのかもしれない。

北京での生活は悲惨だった。

「高血圧、肺炎、腎臓炎などの重い病気にかかって、長い間療養生活を送った。監獄と病院だけにいたので、中国のこと、中国の町並みさえ知らない。二度も病気で死にかけて輸血をして脳神経を痛め、耳と目を痛めた。疲れると頭がしびれてぼんやりする」——淡々と語っているが、その内容には鬼気迫るものがある。

大使館員が渡航書手続きを説明すると、伊藤氏は、「自分で書けません。署名はできません」と答え、同席の中国紅十字会の職員に代筆を頼み、そのあと申請書と経歴書に所持のペンで自署したという。経歴書には次のように書かれてある。

「一九五一年に中国にきた。その後、日共から隔離審査を受けた。一九六二年から日共の人がこなくなった。以後、腎臓炎、高血圧、肺炎にかかり、現在まで治療、療養の生活を送った」

渡航発給申請書の申請理由欄には、「日本へ帰って家族と団楽（注）団樂の間違いか）するためです」と書いてある。

伊藤氏の署名は目が悪いためか、大きな字で書かれており、枠からはみ出ている。それに渡航発給申請書に載っている写真は、まるで囚人のようなみじめな姿だった。

私が若かった頃、記憶にある伊藤氏は、戦後の混乱の中でさつそうと雄弁に革命を呼びかけていた勇姿である。その伊藤氏が、今は大使館員の前に打ちひしがれた姿をさらしている。伊藤氏の一生は一体なんだったのだろうか。私は、革命運動の残酷さに、報告書に目を通しながら暗たんたる思いをしたことを、今もなお鮮明に覚えている。

ながの のぶとし 会員略歴 一九二八年東京都生まれ。早稲田大学政経学部卒。五四年時事通信入社。五六年東京新聞政治部に移り、政治部次長、外交担当編集委員を経て八五年定年退職。現在、東海大学教養学部国際学科教授。日本国際政治学会評議員。

湾岸戦争とアメリカ人

ワーキングプレス

ベトナム戦争以来二十六年ぶりに戦争を取材して気がつくのは、今度の戦争がアメリカ人にとって、いかに「自分の良い」「かつこい戦争」かということである。空爆が始まって以来、アメリカ人はハイテク兵器に魅了されて、テレビの前に釘づけになってしまった。「ニンテンドー・ウォー」という一部の批判の声などものかわ、次々に登場する怪鳥のような新型の戦闘機や、尾をひいて発射されるクルーシング・ミサイルに目を奪われ、SDI用のはしり、パトリオットの実演まで入るといふ豪華さに酔いしれ、興奮した。

そこには、これまで世界中から浴びせられた「駄目なアメリカ」というイメージはなく、世界の先端技術を駆使して次から次へと目標を爆破し、雄々しく戦うアメリカのイメージしかない。テレビを最大限に利用したホワイトハウスと国防総省のイメージ戦略は、見事に成功したのである。

二十六年前とは何という違い

だろうか。

あの時ワシントンの主役は、みるからに悪役のジョンソン大統領で、敵役の方は、みすばらしいパジャマのような服を着たベトコンだった。どうみてもアメリカ人が、「敵意や憎しみをかきたてられる」という相手ではなかった。戦争が長引くと、テレビはジャングルの村を焼き、女や子供をひどい目にあわせて

次は日本とビジネス戦争

日 高 義 樹

いるアメリカ兵の姿ばかりを映すようになり、反戦運動がアメリカを覆っていった。

だが今度の戦争で、アメリカは格好の「敵役」にめぐまれた。毒ガスを容赦なく使い、近代兵器をためこんだ、いかにも憎々しげな風ぼうのサダム・フセインである。かたやアメリカ側は、ビジネスマンのようなブッシュ大統領、敏腕弁護士

うにしゃべるチェイニー国防長官、いかにも誠実そうなベーカー国務長官。だれも悪役という柄ではない。

そしてテレビに映るのは、あくまで見通しのいい乾いた大地、砂漠である。戦争の舞台として最適ではないか。人影のまゝでない、その大地めがけてロケットが発射される。爆破された目標から、音もなく巨大な煙

があがる。ほとんど百発百中である。「やった！」。アメリカ人が興奮するのも無理はない。

今度の湾岸戦争は、いわば脚本も配役もPRも完璧な、ヒット間違いなしの「戦争超大作」なのである。制作「ホワイトハウス、共同制作および配給」アメリカ・メディア。テレビは国民が「見たい」と思っているものを送り続ける。ハイテク兵



クウェート解放に湧くパレード (2.27)

写真 WWP

器のほかは星条旗、黄色いリボン。バグダッドのがれきと逃げ惑うイラクの人々を映したCNN特派員は、イラク・シンパと議員にののしられた。

この戦争超大作を見終われば、アメリカ人は西部劇を見たあとと同じ興奮状態になるだろう。「次はだれをやっつけようか」と、腰に手をやるガンマンの気分である。この高揚した気分のまま、今度は日本にビジネス戦争をぶつけてくる。

(二月二十二日記)

ひだか よしき氏 一九五九年NHK入局 ベトナム特派員 ワシントン ニューヨークの特派員 支局長を務め 八九年からアメリカ総局長

グラスノスチの行方

ワーキングプレス

ペレストロイカ（改革）という名の生き物は、ただ一人の子供であるグラスノスチ（公開性）を食べ始めた……。いささかどぎつい表現だが、ゴルバチョフ政権による言論統制の動きが出てくるソ連では、ペレストロイカでただ一つ、国民が成果を肌で感じることができた民主化が消えようとしていることに對し、こんなたとえ話が嘆息交じりに語られている。

こんなことを報道してもいいのだろうかとは心配しながら、自分自身楽しみにしていたテレビや新聞での百家争鳴ぶりにかげりが差してきたのは、昨年末からだ。人気政治番組「ブズグリヤド（視点）」が、シェワルナゼ前外相辞任劇の真相を関係者に生放送で語ってもらおうと準備したところ、当時の国家テレビ・ラジオ委員会（現在の全ソ国営テレビ・ラジオ会社）からストップがかかり、その後、番組そのものが事実上の打ち切りになってしまった。

一月のリトアニア武力介入事

件でも、西側並みの客観報道で知られていた深夜ニュース番組「TCH」で、有名な女性キャスター、タチヤーナ・ミトコバが「残念ながら、これから放送するのはわれわれの独自の情報ではなく、公式情報です」と、検閲があったことに暗に抗議して画面から姿を消し、アナウンサーと代わる一幕もあった。

テレビばかりではない。改革

昨年末から百家争鳴にかけり

吉田成之

派の論調で、常に保守派の「ブラウダ」（共産党機関紙）と對比されていた政府機関紙「イズベスチヤ」のゴレンビオフスキー第一副編集長が、リトアニア事件で知識人グループの反ゴルバチョフ声明に名を連ねた後、スペイン特派員に「左遷」されそうになり、同紙編集局が抗議ストの警告で一応食い止めるとの騒動があった。

しかし、何より国民、特に、ソ連人ジャーナリストにショックを与えたのは、一月十六日、ゴルバチョフ大統領が最高会議で、昨年六月に難産の末ようやく、報道の自由を保障する法律として成立したばかりの「新聞法」を「一時停止してもいい」と発言したことだった。

この時、筆者も最高会議の記者団にいたのだが、記者団から

は思わず「何てことだ」との声が上がった。

この日の最高会議は、同会議のグラスノスチ委員会がマスコミ報道の「客観性」をチェックすることを決め、「新聞法」の一時停止には至らなかった。

しかし、大統領が近く、報道の自由を大幅に制限する大統領令を準備している、との情報が出た。独立系マスコミで早くも流され

ており、大統領が「新聞法」の一時停止に踏み切る公算は小さくない。

今のところ、モスクワの西側記者団は、特にソ連当局からの圧力や取材の規制を受けていないが、最高会議担当のソ連記者団は昨年十二月、マスレンニコフ同会議報道官に集められ、

「客観的」報道に努めるよう要請を受けた。私の知る限り、こんなことは初めてだった。

もっとも、グラスノスチで力を付けたソ連マスコミ側が、一方的に受け身になっているわけではない。二月初めのソ連ジャーナリスト同盟大会は、これまで事実上空席だった同盟議長に、国家テレビ・ラジオ委商業放送局長で改革派のサガラエフ氏を選出した。同氏は同盟にとって初の専任議長で、今後、グラスノスチを守る中心人物となるとみられている。

よしだ しげゆき氏 一九七七年共同通信入社 レニングラード大学留学などを経て外信部 八八年からモスクワ特派員

東京都知事選

ワーキングプレス

「私は元々争いを好む方ではないが……」

「政治に真剣勝負が欠けている」

対照的なセリフを口にしたお二人が都知事選に名乗りをあげたのは、二月七日だった。NHKの名キャスターで鳴らした磯村尚徳氏と、スポーツ平和党のアントニオ猪木参院議員だ。

その二日前、鈴木知事は都議会本会議で、四選出馬を正式に表明。日本共産党などが推薦する畑田重夫氏もすでに戦線に加わっていた。こちらのお二人は四年前にも登場し、いわば玄人筋に知られた「古顔」。そこに素人受けのする強力な「新顔」が現れ、一挙に面白くなった。

「磯村対鈴木」の構図は、自民、民社の党本部とオール公明党対自民、民社の都連、都議団の対決という、都知事選史上初めての保守・中道分裂選挙を生み出した。

昨年十二月、公明党の石田委員長が「鈴木擁立」を困難視する発言をした時、「鈴木知事の

終わり」の始まりだな、と感じた。一週間後に、小沢・自民党幹事長が、追い討ちをかける発言をした時は、「いつ、どういう形で決着するのだろう」とそんな思いを巡らせていた。もうゴールは設定されてしまった、との気持ちだった。

私たち、都政を取材対象とする「有楽クラブ」の記者がカバーする、自民党の都議や東京選

大逆転なんかあるの？

増田 誠

出の国会議員のほとんどと同じ見方だった。「小沢―市川（公明党書記長）の仕掛けだ」というのが、だれの口からも漏れてきた。「天下の政権党の幹事長だよ。もう無理だな」と、サバサバした表情の人も少なくなかった。

しかし、夜討ち朝駆けを続ける中で、議員たちの気持ちや見通しも、変化や揺れが目立つようになった。「美濃部革新都政の

後始末をした立派な知事に対するに、余りにも失礼なやり方。断固、屈服すべきではない」。長老都議やベテラン代議士の憤りが、徐々に浸透していった。「いや、このままでは鈴木さんがかわいそうすぎる。われわれ自民党の議員だけでも、鈴木コールをやって、自ら辞退声明を出して頂くのさ。そんな解説をする若手議員もいた。

二つの見方のいずれが力を持つのか。取材の目標はその一点に絞られた。「大逆転なんかありうるだろうか」。その思いを常に抱きつつ取材を続けた。

その鍵は、他ならぬ鈴木知事自身が握っていた。「簡単にはいかないよ。知事はやる気なんだ。こっちが辞めると言わなければどうなりますかな」。知事側近は、ダンマリ戦術をとった。そ

来につなごう、マイタウン。

鈴木知事
「マイタウン」東京の自治



4選をかけた鈴木知事の政策発表（2.22）

の頑固さが、都議や国会議員の気持ちをも固めていった。地元議員らが離れないことが、知事の生命線だった。いつ壊れてもおかしくない危うい関係に見えたものが、辛うじて支え合って、四選出馬にこぎつけたように見える。

建前と本音の議論を巧みに使い分けているように見えながら、いつの間にか「知事候補を決めるのは都連であり、都議団だ」という建前論に縛られていった議員たちの姿が、印象的だった。

ますだ まこと氏 一九七三年朝日新聞入社 社会部記者として司法 教育 J Rを担当 九〇年から有楽クラブ担当

山梨県知事選

ワーキングプレス

今回の山梨県知事選は、昨秋に前哨戦が本格化しようとしていたところから、勝敗の行方を読むのに苦労した選挙だった。

敗れた前副知事の小沢澄夫氏は、自民、社会、公明、民社四党と連合山梨が推薦し、厚い選挙態勢。一方、勝った天野建氏には、分裂した自民党から二派閥が支持に回ったものの、組織力ではなかった。組織力では小沢氏が圧倒的に有利なのだが、そう簡単に結論づけるわけにはいかなかった。

小沢氏の態勢は、保守支持層がほぼ二分されているとみられたうえ、社会党支持層の中から、安易な保守連合に批判の声が出ていた。「権力と県民の戦い」をキャッチフレーズにした天野氏の側には、十二年間続いた金丸信元副総理―望月知事の県政支配構図に対する不満の声、転換を求める声を吸収する可能性があった。

そんな分析をしているころ、一線記者から「異変」の報告が入ってきた。甲府市中心街のス

ナックやすし屋で、飲みながら知事選の話をしていると、どうも天野氏という声が多いという。県職員の間では小沢氏の勝利を前提にしながらも、「勝つのはよいが、大差はいけない。国会だって保守伯仲の方が正常だ」といった話が交わされている。

県会議員も「後援会の小会合で知事選の話になると、小沢氏、天野氏と支持はほぼ半々。

“異変”呼んだ権力への反発

西川 勝 仁

天野氏の方が多いこともある」と、自身のスタンスに思いを巡らしながら、首をかしげていた。

昨年の暮れ、告示を一か月後に控えた一線記者との戦況分析会では、金丸氏の出身地区を担当している記者から「天野氏支持という声も結構大きい」と、注目できる報告があった。

迎えた告示日の一月十四日、事務所開きの雰囲気も、小沢氏

と天野氏では対照的だった。小沢氏の会場は選挙のたびによく使われる広い駐車場。周りの歩道にまであふれるほど人が集まったのだが、政党トップの演説にも拍手はまばらで、熱気が乏しい。対する天野氏の方は、人出ははるかに少ないが、「ウォー」と沸きあがる熱気があった。

今回の知事選と似たムードの選挙を、山梨では最近二回経験

している。一つは昭和五十八年

の県都・甲府の市長選。四選を狙った現職を告示直前の対抗馬擁立で敗った。十日間選挙である。県議選に現職が長男を立てたことから、それまで与党の立場だった県議らが一斉に反発しての戦いだった。もう一つは一昨年の参院選。選挙区選挙で、消費税とリクルート事件への批判を掲げた連合推薦の新人

が、自民党現職を敗った。ともに組織力で勝る現職に対して、有権者は一歩距離を置く感じの冷やかなムードがあった。

「甲州選挙」と呼ばれる山梨の激しい選挙は、その特徴として「金権」「おん念」「地縁血縁」「情実」などの言葉で語られてきた。今度の知事選と先の二つの選挙を通してみると、「権力への反発」という側面も加えていいのではないか、と思えてくる。

にしかわ かつひと氏 一九七三年山梨日日新聞入社 整理部 社会部 運動部 県政担当などを経て 現在政経部長



当選インタビューに答える天野氏 (2.3)

ク ラ ブ ゲ ス ト

秋山 豊寛 TBS報道総局長

2.7 (木) 開会
司会 藤原 弥 委員
出席 61人

ゲストルームで記念署名を求める
と、しばらくちゅうちゅうして『前宇
宙特派員』と書き添えた。会場へ移
り、司会者から「これ、本番です」
とキューを出され、スタート。

今回の宇宙プロジェクトのいきさ
つ、選考されるまでの経過、そして
きつかったと思われるソ連での訓練
の日々、と話は進んだが、「大変さ
はデスクの時の十分の一くらい。辛
かったといえば、ロシア語の勉強か
な」と事もなげに言う。

「宇宙に行ったといっても、たか
だか地上四百キロ。今やそこは、フ
ツーのおじさんが仕事をやる所」。「ほ
とんどやり残したことがかり。でき
たのは無重力空間を茶の間に紹介し
たことくらい」。発言の端々に強じ
んな精神力とジャーナリストディク
な視点が感じられ、とてもフツーの
おじさんには見えなかった。

ビオレタ・チャモロ ニカラグア
大統領

大統領に選出されてちょうど一年。

ソモサ独裁政権に反対し、自由と民
主主義を唱えて凶弾に倒れた夫の遺
志を心の支えに、コントラの武装解
除を完了させ、内戦を終結させた。

「戦争を始めるより平和をつくりあ
げるほうがずっと難しい」との言葉
が重く響く。

「先進諸国から持ち込まれた武器
が内戦を複雑・長期化させた」と言
う。民族の和解を確固たるものにす
るためにも、「いま所有している武
器を生産国のソ連、ドイツに返還し
たい」とも。

親米派のチャモロ政権の今後の最
大の課題は、経済再建。「湾岸戦争
の影響もあって苦しい状況だが、日
本、ドイツなどの支援をさらに期待
したい」と述べた。

詳細は記録版第51号(3・7)に。

2.13 (木) 記者会見
司会 藤村 邦苗 副理事長
通訳 丸山 啓子
出席 85人ミクローシュ・ネーメト ハンガ
リー前首相2.19 (火) 記者会見
司会 宮智 宗七 委員
通訳 西村 好美
出席 66人

八八年、三十九歳の若さで首相に
就任。西独移住希望者にオーストリ
アとの国境を開放するなど、東欧の
民主化に役立った。

まず、東欧諸国のかかえる経済的
困難を説明。「市場経済が確立され
るにはまだ数年かかる」と述べた。

質疑では、「座って話すのは苦
手。立って自由に話す方が気持ち
いい」と言い、スピーチとは一転し
て、生き生きとした表情を見せた。

「対ソ貿易の決済をハードカレン
シーにした。貿易量の減少などが予
想されるが、今や対西側貿易は七〇
%に達している」「ソ連からの原油輸
入が六百万トンから百五十万トンに
減ったが、これはソ連の原油生産量
の減少が原因」。

四月、ソ連・東欧支援を目的とす
る欧州復興開発銀行の副総裁に就任

する。会見後、急いで大蔵省へ向か
った。

光岡 知足 東京大学名誉教授

記念署名に「知足」(老子の「知足者
富」から)と書いた。自分の名前
(ともたると読む)をサインしたゲ
ストは初めて。

「腸がんと腸内細菌の役割」をテ
ーマに話をしたが、「人間の腸内
には百種以上、百兆個もの細菌が生息
しているが、善玉は有害菌の増殖を
阻止し、腸内環境をきれいにする働
きをもっているビフィジス菌だけ」

「六十歳以上になるとビフィジス菌
が減少してくるが、健康を維持し老
化を防ぐためには、毎日補給するこ
とが肝要」「大腸がんや心臓病など
の成人病は、食物繊維不足が原因。
食物繊維は一日二〇グラムとるべ
し」。

終了後、ゲストルームで「健康相
談」する人も出てきた。

2.20 (木) 研究会
「新しい科学と技術」(11)
司会 村野 賢哉 委員
出席 32人

ク ラ ブ ゲ ス ト

金 容淳 朝鮮労働党書記



2.21 (木) 記者会見
田畑光永委員長
司会 田畑光永委員長
通訳 黄哲人
出席 166人

あつという間に会見室が埋まり、急いで用意した会場外のいすもすぐに満席になった。

朝鮮民主主義人民共和国の国情、朝鮮半島の平和・統一への努力など三十五分間にわたって熱弁をふるったが、この後、待ってましたとばかりに手が上がった。

日朝国交正常化交渉の焦点となっている「償い」「核査察」などに続き、「日韓基本条約が現存したまま正常化するのか」とのズバリの質問に、「昨年の三党（自民、社会、朝鮮労働）共同宣言では、『朝鮮は一つであり、北と南が対話を通じて平和的統一を達成することが朝鮮人民の民族的利益に合致すると認める』となっている。それが答えだ。」
あえて条約の廃棄を言わなかったのは、従来からの方針変更とも受けとれるが……。

バチエスラブ・ケービツチ 白ロシア共和国首相



2.26 (火) 記者会見
伊藤光彦委員長
司会 伊藤光彦委員長
通訳 小宮山俊平
出席 55人

同共和国は、ソ連の機械工業の三〇パーセントを担っているそうだが。その首相は開口一番、「我が国は刷新された連邦」に属する主権国家である」と切り出した。それは、ゴルバチョフ大統領が推進する新連邦条約によるものであり、「単に新しいソ連邦に入るのではなく、その基礎になりたい」とも。そしてソ連国内の保守化の動きに対し、「市場経済化、民主化を支持する勢力が大多数。ゴルバチョフ路線を信じており、大統領のために戦わねばならない。」
チェルノブイリ原発事故で白ロシアは領土の五分の一を汚染されたが、核による被害を知っている日本に、「医療や薬品の援助をお願いしたい」と。ちようどこの日、ゴルバチョフ大統領は救援計画をまとめるため同共和国を訪問していた。

鈴木 永二 日経連会長



2.28 (木) 昼食会
鈴木幸夫委員長
司会 鈴木幸夫委員長
出席 81人

今年五月での会長交代を裏づけるように、「そろそろ自由に話させてもらいたい」と口火を切った。

「湾岸戦争終結へ」のニュースが流れた直後の昼食会。まずポスト湾岸に触れ、「日本は、中東の新秩序の形成に、積極的に貢献しなければいけない」「日本の国の理念を前面に出して、どんな行動をとるのか検討していかなければならない。」
気負いのない口調で、「（関係会社の）数千億円の不動産取引のツケを銀行が引き受けるのは、社会正義に反する」「土地は生活の豊かさの原点。なぜ自民党が新土地税制を骨抜きにしたのかは疑問」「日本のよき労働関係は、社会の安定要因であることを忘れてはならない」「実践的行動を志しており、海部首相にも率先垂範するようお願いした」など、一時間を超えるお話だった。

イワン・フロロフ 『プラウダ』編集長



2.28 (木) 記者会見
木村明生委員長
司会 木村明生委員長
通訳 米原万里
出席 114人

ソ連の実態について、「社会刷新のプロセスは、極めて重要な局面を迎えている」「経済的な困難を背景に、各地で対立が高まり、解決のためのコンセンサスが得られない状況になっている」との一方で、「ゴルバチョフが後退したという人がいるが、その人達はそもそもペレストロイカの解釈自体が間違っていた」と反ゴルバチョフ勢力を糾弾した。

そして質問に答え、「今、エリツィンとゴルバチョフの関係は先鋭化している。それは、エリツィンの非建設的で一貫性を欠く言動からもたらされたものだ。彼には、ペレストロイカを前進させる土台は何もない。」
三月下旬のロシア共和国人民代議員大会では、彼に対する不信任案が提出されるだろう」と、エリツィン氏を厳しく批判した。

連載 36



= ケニア =

報道界へ無言の圧力

小沢 勝

学生だった十年前、ナイロビで一年間暮らした。下宿先の近くにある警察署で、時々テレビを見せてもらうのが楽しみだった。

「どうしたの。むっつりしてずいぶん深刻そうなドラマだねえ」

「面白い家庭物だったんだけどな。さつきから黙ったままなんだ」

画面の俳優三人は、テーブルを囲んだまま不安そうに視線をうろつかせて二十分が過ぎ、番組は終わってしまった。一人がセリフを忘れてしまったらしい。当時、ケニアの放送局には十分なVTR設備がなかった。

ドラマもぶつつけ本番がたびたび。こうした事故もよく起きたらしい。

昨年、ナイロビに戻って驚いたのは、放送技術の格段の進歩だった。

カラー放送に加えて番組の質、バラエティーの豊富さは、かなり先進国に追い付いたように思えた。そして何よりうれしかったのは、チャンネルが二つになっていったことだ。

昨年四月、ケニア放送協会(KBC)の独占だったテレビ事業に、新たに民間のケニア・テレビ・ネットワーク(KTN)が参入した。KTNは契約受信で有料。特約店に頼んで専用アンテナを設置しないと見えないことになっている。なっている、というのは、UHFチャンネルを微調整すれば見えてしまうのだ。映りは悪いが十分観賞に耐える。申し訳ないと思いつつ、実は私も「盗視聴」させてもらっている。

KTNは独自のソースはあまり流さない。朝、昼、夜それぞれ十分ほどの国内ニュースだけだ。あとは米CNNニュースを二十四時間、放映する。

もともとアフリカ人はヤジ馬根性が旺盛。うわさやニュースは驚くべ

き速さで口伝えに広まる。下手をすると新聞やテレビより速い。娯楽が少ないせいもあるのだろうか。

そんなニュース好きのケニア人にとって、米国の第一線メディアの報道に触れた驚きは大きいようだ。リアルタイムで入ってくる湾岸情勢は、市民をテレビに釘付けにしている。ケニア市民がこれほどテレビニュースに関心を持ったことはないだろう。

これまでのケニア製テレビニュースには、あまり興味をそそられなかった。情報量の問題もさることながら、政府公報的な性格が強いからだ。

ケニアはケニア・アフリカ民族同盟(KANU)の一党独裁が憲法で規定されている。アフリカの複数部族国家では、一党独裁を規定するところが多い。部族党の乱立を防ぐため、共産党独裁とは性格が異なる。が、複数政党制への要求が高まっているのは、ちよつと前の東欧と同じだ。

アフリカでも、いくつかの国が複数政党制移行に踏み切っている。

しかし、ケニア政府はKANU独裁を堅持する姿勢を見せており、複数政党制導入派に対する圧力を強めている。これが報道にも無言の圧力

となつて反映されているようだ。

昨年、ケニア国内での最大のニュースといえば、七月に起きた複数政党制導入要求運動に端を発した暴動事件だろう。鎮圧にあたつた警官隊との衝突で、市民の間に二十人以上の犠牲者が出た。しかし、テレビニュースでは、暴動事件はほとんど報道されなかった。代わりに延々と流れていたのは、閣僚の子息の結婚式のニュースだった。

先日ナイロビ市内の大統領官邸に、操縦ミスで空軍のヘリコプターが墜落するという不祥事があつたが、テレビニュースはおろか、翌日の新聞でも一行も報道されなかった。

あからさまな検閲制度はないが、政府批判を展開した報道には、発禁などの措置が下されることもある。報道機関はいきおい自主規制する傾向が強い。

米国の自由な報道ぶりが人気を呼んでいることで、ケニア報道界のおよび腰も少しは変わるのではないかと期待している。

おさわ まさる氏 一九八二年読売新聞入社 青森支局 地方部 外報部を経て 九〇年からナイロビ特派員

■会議報告■

日本記者クラブ賞推薦委員会

(2・18 大会議室)

委員長に内川芳美氏を互選。候補十氏について意見を付して、選考委員会へ報告することにした。

出席 内川委員長。阪口、家城、河野、権田、酒井の各委員。

第119回会報委員会

(2・8 第2会議室)

「会報アンケート」の結果に関し

て最終報告したほか、三月号の編集について協議した。

出席 深川委員長。池浦、出田、今城、林の各委員。

第186回企画委員会

(2・12 大会議室)

五月二十八日に行われる第37回通常総会記念講演の講師に関して協議したほか、ゴルフバチョフ大統領の記者会見に関する小委員会の構成社については委員長に一任することにした。

た。また、クラブゲストのスピーチの全文掲載に関して、申し合わせを行った。

出席 平野委員長。村上、下村、伊藤、阿部、小林、石川、広瀬、藤原、田畑、川内、宮智、権田、酒井、内田、村野、木村、渡辺の各委員。

第162回会員資格委員会

(2・14 第2会議室)

三月一日付の会員入退会を審議

し、理事会へ答申した。

第76回施設運営委員会

(2・20 第2会議室)

四月から改定することになっているレストランメニューについて審議し、新定価を決定した。

出席 石川委員長。中空、和田、小松原、宮地、樋口、上田の各委員。

会場入り口で、解説チラシと一緒にハンカチを渡されたのには驚いた。二月十三日、プレスセンターホールで開かれた、当クラブ主催のアニメ映画『うしろの正面だあれ』の試写会、家族連れも交じり、和気あいあいの雰囲気である。上映に先立ち制作社側（五社提携）を代表して、テレビ東京の社長・杉野直道会員が「この映画は泣かせます。そのためハンカチを用意しました」とユーモラスにあいさつして、笑いのうちに上映開始。

原作はエッセイスト海老名香葉子さん（故林家三平師匠夫人）が児童向けに書いた同名の刊行物

Ⅱ試写会Ⅱ

『うしろの正面だあれ』



で、小学一年生当時の昭和十五年から、二十年三月十日の東京大空襲で、釣り竿屋の一家六人を失うまでの哀しみの記録だ。

だあれ。かよ子のうしろには、身重の母親がエプロン姿で立っている。びっくりするかよ子、抱きしめる母親、しみじみとした愛情シーンだ。

所の路地裏で子供達が輪になって回りながら唄う真ん中に、両手で目隠しのかよ子がしゃがんでいる。へかごめ、かごめ、籠の中のトリはいついつ出会う……うしろの正面

アニメは当時の下町をよく描き出している。「ゼイタクは敵だ」「米英撃滅」などの看板、自転車、のトウフ屋、両国橋から望む国技館の丸い屋根、行き交う人びと

は、国民服にゲートル、モンペにエプロン、そして出征兵士を送る行列など。そのころの下町を社会部遊軍記者として取材に飛び回っていた筆者は、思わずこみあげてくるものを感じた。

かよ子は疎開先の沼津で、丘の上に駆け上がった真つ赤に焼ける東京の空を見る。一家六人が失われた東京大空襲の日……。上映一時間半、アニメの新分野をひらいた作品だ。地球動乱の今日、すべての人に薦めたい。

山崎英祐
(個人DIIやまざき えいすけ会員)

8割が「よく読む」「時々読む」

会報アンケートの結果

(実施:1990年12月
回答数:637 回答率:24.1%)

常設欄の閲読について	よく読む		時々読む		ほとんど読まない		無回答	
	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
フロントページ	327	51.33	250	39.25	33	5.18	27	4.24
とっておきの話	444	69.70	163	25.59	21	3.30	9	1.41
ワーキングプレス	270	42.39	283	44.43	46	7.22	38	5.97
写真回廊	229	35.95	273	42.86	89	13.97	46	7.22
クラブゲスト	274	43.01	286	44.90	46	7.22	31	4.87
世界のテレビ	155	24.33	263	41.29	175	27.47	44	6.91
ビジョンボックス	87	13.66	265	41.60	217	34.07	68	10.68
プロフィール	231	36.26	292	45.84	80	12.56	34	5.34
記録版	199	31.24	274	43.01	107	16.80	57	8.95
平均		38.65		40.97		14.20		6.18

「とっておきの話」がトップ

昨年十二月末締め切りで実施した「会報アンケート」の総回答者は六三七人で、回答率は二四・一%（調査時点での会員数二、六四五人）。

この回答率は、八二年十一月（二二・八%）、八六年一月（一七・一%）を上回った。前々回同様、はがきを利用したアンケートだったことが、回答数の増加につながったものと思われる。

回答者数を年齢別にみると、三十歳代六人、四十歳代五三人、五十歳代三一九人、六十歳代一七三人、七十歳代四八人、八十歳代五人、年齢不明二三人で、回答者全体の約半数（五一・六%）が五十歳代、約四分の一（二七・二%）が六十歳代、となっている。

常設欄、記録版の閲読率は上表の通り。前回同様、現役時代の取材・報道上の思い出、エピソードを随想風にまとめたいただいている「とっておきの話」が九五・二九%（「よく読む」六九・七〇

%、「時々読む」二五・五九%）と圧倒的に高く、以下、「フロン

トページ」九〇・五八%、記者会見・昼食会などに登場した人物を紹介する「クラブゲスト」八七・九一%、一線記者の取材雑観リポート「ワーキングプレス」八六・八二%、新入会の個人D・賛助会員を紹介する「プロフィール」八二・一%の順。

「世界のテレビ」と「記録版」については、今回初めて調査したが、「世界のテレビ」が六五・六二%、「記録版」が七四・二五%だった。

記録版を含めた平均値は、「よく読む」「時々読む」合計で七九・六二%、「ほとんど読まない」「無回答」合計で二〇・三八%となっている。

前二回のアンケート時のこの数字は、前者が八二年十一月二七・五五%、八六年一月七九・一五%、後者が八二年十一月二四・五%、八六年一月二〇・九%で、「会報」は約八割の方々に読まれており、会員の間に定着しているといえる。

九八人からコメント

今回のアンケートには、九八人の方からコメントが寄せられた。「関係者の皆さんの努力に感謝しています」「いつもご苦労さまです」などが大半だったが、いくつかに分類して紹介すると――。

〈編集全般について〉

「ほぼ現状のままでよい」が大勢だが、「全般的に面白さに欠ける」「51歳」が全体的に記事が長過ぎる。きりりとしまった紙面を「(59歳)」「もっとファミリアにしたい」「(68歳) など、面白さ」「親しみやすさ」を期待する意見が散見された。

また、レイアウトに関し、「活字ばかりで終わりまで読み通す気になりません。カラー(二色もしくは四色)にするなど、もっとビジュアルな読みやすいものとされたい」「(47歳)」「レイアウトがおとなしすぎ、退屈という印象が強い」「(53歳) などの反面、「時代におもねった今日風なレイアウトなどする必要はない。それよりも情報

(記事)をいっばいめこんだ紙面の方がありがたい」「(62歳)との意見もあった。

このほか、「もっと女性を紙面に登場させてください」「(56歳)」「外人記者の意見を掲載してほしい」「(54歳)」「若干、テーマが偏在している。ニュースのバックグラウンドが広いものを取り扱ってほしい」「(67歳)」「もっと活字を大きくできないか」「(66歳)といった注文や、「変化の激しい時代だというのに、メディアの変容ぶりが全く感じられない」「(54歳)」「主観的記述にならないよう、また厳正なる客観性を持つる機関誌たるよう望む。甘い自画自賛は不可」「(79歳) という指摘も寄せられた。

〈常設欄、記録版について〉

閲読率が最も高かった「とっておきの話」については、「諸先輩の活躍を大変興味深く読まさせていただいて」「(55歳)」「役に立つ読み物」「(54歳)」「毎号面白くぜひ続けてください」「(65歳)との評価が寄せられた。また、「できればもう一ページ増やしてほしい」「(55歳)

といった希望が出された一方、「当たりはずれがあり、一ページでいいのでは」「(63歳)との意見もあった。

このほか、「クラブゲスト」「記録版」に多くの意見が寄せられた。「クラブゲスト」については、「記者会見に出られない人のために、今後ゲストの発言内容は詳しく掲載して」「(57歳)」「スペースを拡充し、各人等ではなく話の内容によって長短を。顔写真はもっと大きく」「(57歳) など、詳細性を求める意見が多数を占めた。

「記録版」については、「地方に住む者にとっては、東京での記者会見に出席の機会なし。よって記録版だけの充実を望む」「(62歳)」「とくに大型記者会見の詳細は勉強になる」「(54歳)」「貴重な資料となっている。できるだけ早くいたなければと思う」「(54歳) など、「より一層の充実」と「早期の発行」を求める意見が多かったほか、「データとして活用しやすいように編集してください」「(60歳)といった注文も出された。

〈新企画について〉

次のようないろいろなアイデアが寄せられた。「在日特派員のコラム欄を設けてはどうか」「(56歳)」「世界各国のプレスクラブを紹介するページや、東京以外に本社のある新聞社や放送局の便りがあればと思う」「(57歳)」「もっとリラックスできるページがあってもいい。趣味のページを作ったらどうか」「(62歳)」「余暇利用の体験的アイデアを募集、掲載してはどうか」「(60歳)」「寄稿随想など肩のこらないコーナーを設けていただければ」「(59歳)」「会員間のコミュニケーションを深めるために、広場」「投稿欄」といったものを設けてはどうか」「(59歳)」「クラブ運営などについて、ざつとばらんに言える欄がほしい」「(78歳)」「以前には掲載されていたが、主な会合にはニュース性があり、再掲載してはどうか」「(73歳) など。

◆ ◆
会報委員会は、ご紹介できなかった意見も含め、今後の紙面づくりの参考にしてまいります。

プロフィール

◇個人D会員

〈理事交代〉

北海道新聞社

(新) 木梨 芳一

取締役東京支社長

(旧) 坂野上 明

〈法人会員代表変更〉

中国放送

(新) 堀口 勲

代表取締役社長

(旧) 平岡 敬

会員の著書 (ご惠贈いただきました)

経済がわかる本 今 静行

(ダイヤモンド社 一、二〇〇円)

知られざる北方領土秘史 戸丸廣安

(第一企画出版 一、三九〇円)

平和ドイツの時代 塚本哲也

(文藝春秋 一、八〇〇円)

寄贈書

国際報道と新聞 新聞通信調査会

アメリカの新聞倫理 //

電気通信大学紀要 電気通信大学

回想 三原信一 「回想録」刊行会

ゲスト
カード 第三回中国記者研修
(2・24・3・23 F P

C) 程丹梅 (光明日報)、崔建時

(工人日報)、雒樹剛 (求是雜

誌)、秦洪礼 (新華社)、張国成

(人民日報)、張傑 (經濟日報)

招待券

朝日新聞社から「須田
剋太展」「上村松篁

展」、大丸ミュージアムから「アール・デコ」の招待券をご惠贈いただきました。お礼申しあげます。

「会員消息」の情報提供を

昨年十二月に実施した「会報アンケート」の結果は、12・13ページに紹介したとおりですが、その際「会員等の消息のページは大いに充実して」(59歳)、「会員(とくに個人会員)の所感や近況報告などのできる欄を設けて」(55歳)などの希望が多数寄せられました。

人の動静に対する関心が強いのは古今東西変わらないわけで、このため本誌でも、従来から「会員の消息欄」として「ビジョンボックス」を設けています。

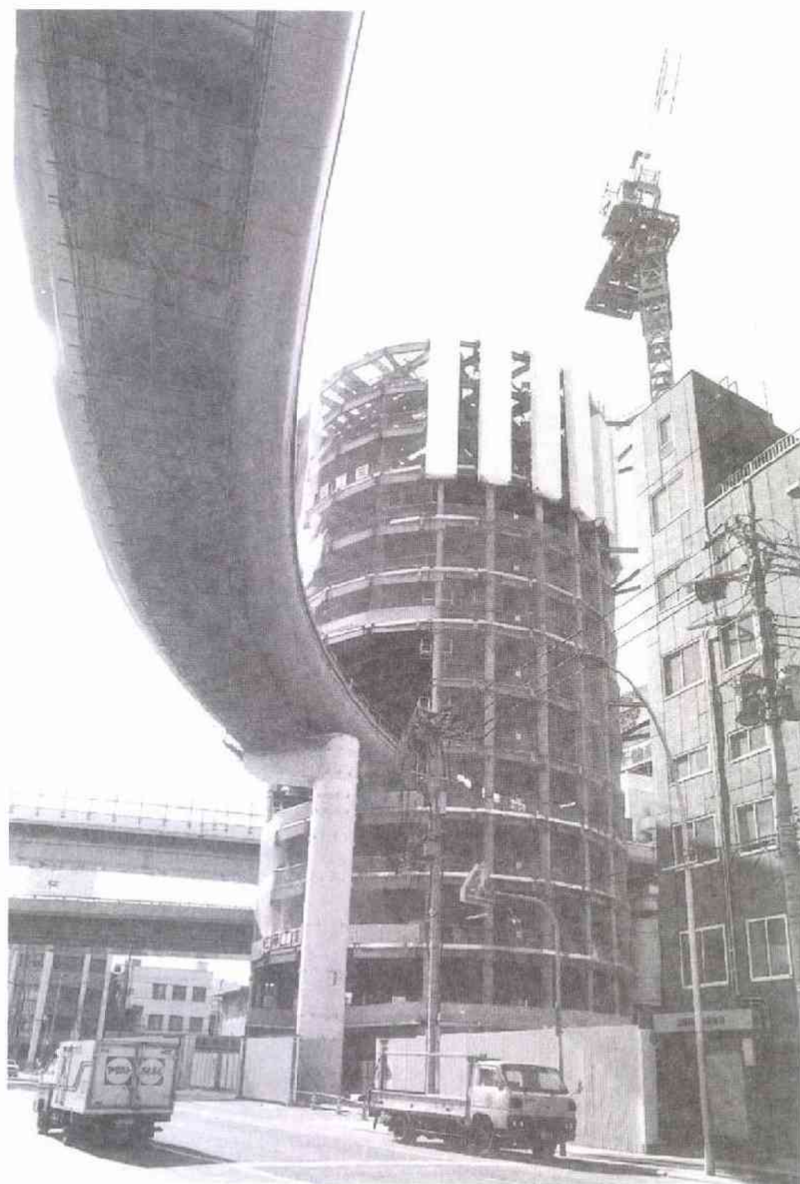
取材・旅行・出版の予定、転居のお知らせ、住所変更などの近況を、二百字以内で毎月十五日までに事務局へお送りください。また、「こんな話があるよ」といった情報を提供していただければ、編集部からご本人に連絡をとり、投稿をお願いしたいと思ひます。

会報委員会では、より一層「親しまれる会報」にするため、会員の皆さんの「顔」と「声」をさらに登場させていきたいと思ひています。ご寄稿をお待ちします。

写真部

写真 小出 夏来

(一九八二年読売新聞大阪本社入社
京都支局を経て写真部)



ビルの真ん中は高速道路(大阪市福島区で)

梅田の通り抜け

「窮すれば通ず」とはまさにこのことだ。場所は大阪駅に近い一等地。地価はペラボウ、更地はなし、このまじや高速道路から直接梅田に出られない。いつそのこと高層円形ビルのお腹(なか)をくりぬいて降り口を通したれ!というわけで、ビルと道路の奇妙な組み合わせ工事が目下進行中、来年夏完成という。まあ人体にたとえれば、消化器のバイパス手術か、臓器移植みたいなもんですな。

法律的には、道路法改正による道路と建物の一体的整備を決めた「立体道路制度」の適用ということらしいが、そんなことはどうでもいい。高速道路側は道路部分の区分地上税を払うだけで、用地買収の三分の一ですむ。ビル側も「花博のパビリオンみたいなビル」で話題となれば双方めでたしめでたし。

「ところで通り抜け見ましたか」

「アホいいな、あれはサクラのときだけや。造幣局が市民に開放して満開のサクラを見せてくれる、いまごろどこに咲いてんねん」

「だれが造幣局の通り抜けというた? ボクのいうのはね、ビルのド真ん中を道路が通り抜ける、オールシーズンの通り抜け」これはマンザイのネタにならないかね。

(永田照海)

四月からレストランメニューを改定

記録版第51号でお知らせしたように、レストランのグランドメニューが五年ぶりに改定されます。いくつかの新メニューのほか、「今月のおすすめ」として、アラスカのcock長ご自慢のメニューが二、三品、月替わりで登場します。

このほか、和食メニューもお試し下さい。昼食時には刺身や煮物など日替わりで三品、夜は会食用にコース（五千円と七千円、注文は三日前まで）があります。

公職選挙

立候補時点で会員資格失う

会員が公職選挙に立候補した場合の会員資格は、「理事会決定」に基づき、次のようになつております。

「当クラブ会員が、国会議員、地方公共団体の長および議会議員の選挙に立候補した場合、会員資格を失うものとする。ただし、名誉会員の場合は、立候補時点で会員資格を一時停止し、当選しないことが判明した時点または公職を退任した時点で、会員資格を回復するものとする」(第62回理事会 83・4・28)

なお、各社において立候補者や当選者の略歴などを紹介される際にも、右記の点にご留意いただきますようお願いいたします。

会費の「預金口座振替」に

ご協力ありがとうございます

すでにお知らせした通り、九一年度から個人D会員の会費が「預金口座振替」になります。D会員の皆様には、ご面倒な手続きにご協力いただき、ありがとうございます。

今後は四月、七月、十月、一月の各月一日に、三か月分の会費一七、四〇〇円を、ご指定の口座から自動引き落としさせていただきます。

第一回目の引き落としは四月一日ですので、よろしくお願いいたします。

会費、会合費のお支払いはお早めに

三月はクラブの決算月になっております。九〇年度中の会費、会合費のお支払いは、できるだけお早め処理していただくようご協力願います。直接、クラブでお支払いになる場合は、大変恐縮ですが、八階の事務局までお越し下さい。午前十時から午後五時までにお願いいたします。

お得な「喫茶券」をご利用ください

前号でPRさせていただいた「喫茶券」が好評です。おつりのわずらわしさがなくなることと、コーヒー、紅茶、ジュースなどソフトドリンクが二杯分お得なことが魅力なのでしょうか。九階ラウンジのレジで発売しています。一冊二十枚つづりで二、七〇〇円です。ご利用ください。

訃報 小林一喜会員(朝日新聞社)が二月十九日、心不全のため逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

会員現況 法人会員 一五〇社 基本会員 六五九人 個人会員 一、六七八人 法人・個人賛助会員 七三社 二二七人 特別賛助会員 七二人 名誉会員 一二人 計二二三社 二、六五八人

三月の行事(5日現在)

東京都知事候補記者会見

12日(火)午前10時40分～正午 磯村尚徳氏
午後4時20分～5時40分 鈴木俊一氏

14日(木)午後1時～2時20分 畑田重夫氏

18日(月)午後4時30分～5時30分 カールン・スウェーデン首相記者会見

25日(月)午後3時～4時 スパイヤーズ国連事務次長記者会見

(行事案内電話 三五〇三―三七六四)

会報委員長 深川 誠 委員 池浦正彦

出田 裕 今城力夫 林 利隆

事務局連絡 長谷川 河野

(電話 〇三―三五〇三―二七二二)